



萱葺屋根の水車小屋が山里の緑と自然景観を織りなす

Oshu Heritage

奥州遺産

No. 23

～ときを越え
受け継がれるもの～

トコトン水車

＝江刺区米里字中沢＝

江刺区米里の人首町を過ぎ、種山高原へ向かう途中、人首川を渡る野里橋が目に入る。橋を渡り道を進むと、萱葺根の水車（トコトン水車）が現れる。

五十刈の水車とも呼ばれるこのトコトン水車。明治10年頃、大場梅三郎という水車大工によって建築された。間口五間、奥行き三間の小屋に、篩（ふる）い付きの挽き臼（うす）一基、米麦用杵（きね）八基を木製の歯車（はぐるま）で連結。長い間、里山の暮らしを支えてきた。

戦後、急激に農業の機械化が進み、昭和40年代に入ると、とうとうこの水車も動きを止めた。平成に入ると地元で水車保存の機運が高まり、16年春、保存会を結成。同年、水車小屋は修復され、復元した。

現在、秋から春にかけて小麦や大麦、大豆などの精製を行っている。緑豊かな里山に響き渡る石臼挽きと杵つきの音色は、今も昔も変わらない。

広 告